

ふくとみちょうさい

児童 第2学年14名
授業者 各務 大貴, 八方 美恵
場所 小2年教室

1 単元設定の理由

【単元の目標】

1 内容(4)

公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用しようとしている。

2 内容(3)

地域と関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。

3 内容(8)

自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことを選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

【児童の実態】

○本学級の児童は、調べ学習や体験学習に意欲的に取り組む。また、事前のアンケートの結果から、「福富についてもっと知りたい」「福富のことを知ってもらいたい」と感じている児童が9割を占めている。そのため、本単元のゴールである「福富のことを知らない人たちに福富のいいところを知ってもらう」ことに向けて、単元全体を通して意欲的に取り組む場面が多くみられると考えられる。一方で、自分の思いを無理に通そうとすることがあり、他者の思いに共感することが難しい傾向がある。

【単元観】

○本単元は、1内容(4)、2内容(3)、3内容(8)として設定している。公共物や公共施設を利用したり地域と関ったりする活動を通して、地域のよさや自分との関わりについて考え、気付いたことや伝えたいことを目的に合った方法で発信することをゴールとしている。公共施設や地域の商業施設等、そこにいる人々と関わることで、その場所ならではのよさや働きに加えて、その周りについても知ることができる。それらを通して知った福富の魅力を発信することで、自分たちの住んでいる地域に対する親しみや愛着をもつことのできる単元である。

【指導にあたって】

○体験による気付きを生かす

指導に当たっては、町探検での児童の気付きを生かしながら学習を進めていくようにする。まず、1回目の町探検では、身の回りにどんな施設があり、そこには何があるのかを調べる。そこから得た気付きや疑問をもとに、2回目以降の町探検での質問内容や調べる方法を考えたり、どんな人に、どうやって福富のいいところを伝えるのかを考えたりする。その際、児童に「前の探検場所ではどうだったか。」「どうやったら前よりも詳しく知ることができるのか。」を問い、常に自分たちの考えや行動を振り返らせるようにする。このように何度も体験と表現を繰り返すことで、質問や探検先での気付きの質を高めていけるようにしたい。

○協働的な学びを促す工夫

本学級の児童は、意欲的に活動に取り組む一方、協働的な学びの場面では課題が見られる。そのため、「この意見のどんなところがいいかな。」「2つを比べてよりよいのはどちらかな。」など、それぞれの考えを肯定的に見たうえで判断させるようにする。そうすることで、自分と相手の意見のよさに注目して考えるようになり、自分の思いを無理に通そうとすることが減ると考えられる。また、伝えることを整理するときは、KJ法を用いることで、優先順位をきめたり仲間分けをしたりしやすくする。その際、「誰にどのようなことを伝えればいいのか。」を児童とこまめに確認しながら相手意識をもって考えさせることで、「自分が伝えたいこと」と「福富を知らない人に伝えるべきこと」を区別して考えられるようにしたい。

2 単元構想ストーリー

【ふくとみちょうさたい 単元ストーリー】 福富小学校第2学年

単元の流れ	地域との連携 体験活動・資料	児童の意識の流れ
<p>○福富について知っていることを話し合い、出てきた場所から町探検に行くところを決める。</p> <p>○道の駅「湖畔の里福富」に町探検に行き、地域を知るための手がかりを探す。また、道の駅の駅長さんから「地域のことについて調べてほしい。」という依頼を受ける。</p>	<p><地域との連携> ・道の駅 ・福富支所</p>	<p>○自分たちの住む福富には何があるのかな。</p> <p>○道の駅は行ったことがあるけれど、どんなものがあるのだろう。</p> <p>○道の駅には、いろいろなものを売っているね。</p> <p>○家族が作っている野菜が置いてあるよ。</p> <p>○たくさんの人が来ているね。</p> <p>○道の駅以外に何があるのだろう。</p>
<p>○町探検で見つけたことや分かったことを交流するとともに、どうすればもっと自分たちの住む地域について知ることができるのか話し合う。</p> <p>○話し合っただけの方法をもとに、調べる内容や行先など町探検の計画を立てる。</p> <p>○町探検に行き、自分たちの住む地域を調べる。</p>	<p><地域との連携> ・見学先の人々</p>	<p>○どうやったら調べられるのだろう。</p> <p>○もう一度道の駅に行ってみたらわかるかな。</p> <p>○インタビューをしたらわかるかも。</p> <p>○道の駅にも地図があったよね。</p> <p>○どんなことをみんなに教えてあげようかな。</p> <p>○家の近くに□□があるよ。</p> <p>○□□に行けば何かわかるかも。</p>
<p>調べたことや発信したいことを整理する。 本時</p> <p>○発信したいことを分かりやすく伝える方法を考え、まとめる。</p> <p>○完成したものを発信する。</p> <p>○活動を振り返る。</p>	<p><地域との連携> ・見学先の人々</p>	<p>○おいしいごはんを知ってもらいたい。</p> <p>○□□に行けばみんな楽しくなる。</p> <p>○□□には遊具があるよ。</p> <p>○福富にはいいところがいっぱいあるね。</p> <p>○どうしたら分かりやすく伝わるかな。</p> <p>○完成してよかった。</p> <p>○たくさんの人に見てもらいたいな。</p> <p>○福富の町をこれからも大切にしたいな。</p>



めざす児童・生徒像

自分たちの住む福富にどんなものがあるのかを調べていく中で、もっと福富について知りたいという思いをもつとともに、福富という町に愛着をもち、それらを大切にしていこうとする児童

3 単元の評価観点・評価規準（小単元3）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かっている。	○自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりしている。	○自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、進んで触れ合い交流しようとしている。

評価の観点		評価規準	
		A	B
知識・技能	①	○自分が伝えたいことが相手に伝わったり、 <u>相手の伝えたいことを理解できたりするよさ</u> や楽しさが分かっている。	○自分が伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かっている。
	②	○相手や目的に応じて、様々な伝え方や適切な挨拶や言葉遣いがあることに気づき、 <u>それらを適切に使っている。</u>	○相手や目的に応じて、様々な伝え方や適切な挨拶や言葉遣いがあることに気づいている。
思考・判断・表現	①	○それぞれの場所で見つけたよさを思い起こし、 <u>誰に伝えるか思い描きながら、自分の伝えたいことを選んで</u> いる。	○誰に伝えるか思い描きながら、自分の伝えたいことを選んでいる。
	②	○それぞれの伝え方を比べながら、相手や目的に応じて、自分が伝えたい内容に適した伝え方を選んでいる。	○相手や目的に応じて、自分が伝えたい内容に適した伝え方を選んでいる。
	③	○これまでの経験を基に、相手のことを思い浮かべながら、伝え方を工夫したり <u>見直したりして、よりよいものにしよう</u> としている。	○これまでの経験を基に、相手のことを思い浮かべながら、伝え方を工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	①	○課題について、自分の意見を持ち、 <u>目的をもって前向き</u> に取り組もうとしている。	○課題について、自分の意見を持ち、前向きに取り組もうとしている。
	②	○役割を持ち、 <u>相手の意見を聞きながら、最後までやり抜こう</u> としている。	○役割を持ち、最後までやり抜こうとしている。
	③	○身近な人々と関わることのよさや楽しさを <u>実感し、多様な人々との関わりを自ら築いて</u> いこうとしている。	○多様な人々との関わりを自ら築いていこうとしている。

4 単元計画（全40時間）

小単元 (時数)	小単元の目標と主な学習内容 ◎ねらい ○学習内容	評価の観点	教科・特別活動 等との関連
①内容(4)公共物や公共施設の利用			
1 (11時間) 町たんけん1 みんなでつかう場しよへ行こう	<p>◎ 福富の地域について知っていることやもっと知りたいことについて考える活動を通して、自分たちの住む地域に関心をもったり調べるための準備をしたりすることができる。</p> <p>○福富の町について知っていることを整理し、どの辺りに何があるのかを白地図にまとめる。</p> <p>○福富の町について、調べたいことを考える。</p> <p>○道の駅に探検に行く計画を立て、準備をする。</p> <p>○道の駅に行き、どんなものが置いてあるのか、それらはどこから来るのかをインタビューをしたり商品の産地を見たりしながら情報収集をする。</p>		<p><国語> 外国の小学校について聞こう</p> <p><道徳> 「あいさつ」っていいな</p>
②内容(3)地域と学校			
2 (15時間) 町たんけん2 グループで出かけよう	<p>◎ 町探検と情報の整理・分析を繰り返す活動を通して、福富のことを発信するために必要な情報を見つけ、目的に応じて選ぶことができる。</p> <p>○道の駅を調べて分かったことを共有するとともに、今後何を調べたらよいのかを考える。</p> <p>○グループごとに町探検の計画を立てる。</p> <p>○グループごとに町探検に行く。</p> <p>○調べてきたことを他のグループと共有し整理する。</p>		<p><国語> この人をしょうかいします</p> <p><国語> 外国の小学校について聞こう</p> <p><道徳> 「あいさつ」っていいな</p>
③内容(8)生活や出来事の伝え合い			
3 (14時間) 町のすてきをはっぴょうしよう	<p>◎福富の町について調べたことをまとめる活動を通して、伝える相手を考えながら発信の準備をしたり発信したりすることができる。</p> <p>○これまでの町探検で調べたことや感じたこと等をもとに、自分たちが伝えたいことを選ぶ。(本時)</p> <p>○考えたことを生かして、発信する。</p> <p>○学習を振り返り、自分や友達の成長を自覚し、よりよく生活しようとする。</p>	<p>思①</p> <p>知①思② 主② 知②思③ 主① 思② 主③</p>	<p><2年生国語> すきな場しよを教えよう</p>

5 本時の目標

これまでの町探検で調べたことや感じたこと等をもとに、自分たちが伝えたいことを選ぶことができる。

6 本時のルーブリック

A	B
<p>☆それぞれの場所で見つけたよさを思い起こし、誰に伝えるか思い描きながら、自分の伝えたいことを選んで<u>いる</u>。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カドーレにはおいしいものがたくさんあることをみんなに知ってもらって、来てほしい。 ・道の駅の遊具は楽しかったから、ほかの子どもたちも楽しいと思う。 ・困ったら福富支所に行けば助けてくれることも教えてあげたい。 	<p>☆誰に伝えるか思い描きながら、自分の伝えたいことを選んで<u>いる</u>。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロボヤ峡にしゃくなげの花があること。 ・Poo'sというクレープやさんがあることを教えたい。

7 学習の流れ

学習活動と予想される児童・生徒の反応 主な発問 (○)	指導上の留意事項 (◇) 評価 (☆)
<p>1 前時までの活動を想起する。</p> <p>○これまでどんなところに行ってどんなことが分かりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅は福富の人もそうでない人も来て、買い物をしたり遊んだりできる場所ということが分かった。 ・カドーレはジェラートやピザがおすすめのメニューだった。 ・クロボヤ峡は自然がいっぱいだった。 <p>2 伝えたいことを整理させる。</p> <p>○みなさんは福富を知らない人にどんなことを教えてあげたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いいところ ・すてきなところ ・調べて分かったこと <p>○「いいところ・すてきなところ」と「わかったこと」はどう違いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いいところ・すてきなところ」は、聞いて「行きたい」と思うこと。 ・「わかったこと」は、よくないことも入っている。 	<p>◆努力を要する状況と判断した児童・生徒への指導と手立て</p> <p>◇これまで取り組んできた活動の目的や町探検での調査の視点を確認するために、前時までの活動を想起させる。</p> <p>◇福富には様々な魅力があることを改めて意識させ、本時の活動への意欲付けにつなげる。</p> <p>◇町探検に行った際、どんな気持ちになったか、どんなことを感じたかを想起させ、伝えたいことをはっきり思い浮かべられるようにする。</p> <p>◇「いいところ・すてきなところ」と「分かったこと」の違いを明らかにさせることで、「福富を知らない人に福富に来たい」と思わせるには、いいところやすてきなところを伝えたらよいことに気付かせる。</p>

<p>3 めあてを設定する。</p>	
<p>みんなに教えてあげたいことを選んで、その思いをまとめよう。</p>	
<p>4 これまでに見つけた福富のいいところや自分がすてきだなと思ったところをワークシートに整理する。</p> <p>○みんなに教えてあげたいことと、その理由をワークシートに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラベンダーはうすのごはんがおいしいこと。食べに来てほしいから。 ・道の駅ではいろいろなイベントをしていること。楽しい気持ちになれるから。 ・うえひろのラーメンは人気があること。おいしいから。 <p>5 自分が一番伝えたいことを発表する。</p> <p>○ワークシートに書いたことの中で、1番教えてあげたいことを理由と一緒に発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロボヤ峡にはしゃくなげの花があることを教えてあげたいです。理由は、池だけじゃなくて花も見られるからです。 ・遊具で遊ぶと楽しいから、道の駅にたくさんの遊具があることを教えてあげたいです。 <p>6 本時の活動を振り返る。</p> <p>○今日の学習を振り返って、できたこと、次の時間に頑張りたいことなどを書きましょう。</p>	<p>◇ワークシートに自分の伝えたいことを整理させる。その際、理由も併せて記入させるようにして、目的や相手意識をもたせるようにする。</p> <p>◆電子黒板に、これまで調べて分かったことを提示し、そこから選ばせるようにしたり過去のワークシートから見つけさせたりする。</p> <p>☆伝える相手を意識しながら自分の伝えたいことを選ぶことができる。 (思①行動観察・ワークシート・発表)</p> <p>◇自分の教えたいことを発表したり、友達の発表を聞いたりして、改めて自分たちの住む福富には、多くのいいところや素敵などところがあることに気付かせる。</p> <p>◇次時に学びをつなげるために、本時の活動を振り返り、本時の成果と次時への課題を明確にさせる。</p>

小学校2年生 「福富ちょうさたい」

6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月
<ul style="list-style-type: none"> 福富町のことをよく知ることができる場所に町探検に行く。 調べて分かったことをもとに、次の町たんけんの計画を立てる。 <p>☆探検先で、福富のおすすめの場所や物を教えてもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループに分かれて町探検に行き、福富のいいところを調べる。 調べて分かったことをもとに、次の町たんけんの計画を立てる。 <p>☆探検先で、福富のおすすめの場所や物を教えてもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループに分かれて町探検に行き、福富のいいところを調べる。 調べて分かったことをもとに、次の町たんけんの計画を立てる。 <p>☆探検先で、福富のおすすめの場所や物を教えてもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループに分かれて町探検に行き、福富のいいところを調べる。 <p>☆探検先で、福富のおすすめの場所や物を教えてもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調べて分かったことを整理し、自分たちが伝えたいことを選ぶ。 伝える方法を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことをまとめる。 1年生にまとめたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域にまとめたことを発信する。 <p>☆協力していただいた方々に、まとめたことを発表する。</p>

駅長さんからのお願い

道の駅湖畔の里福富の駅長さんに協力していただき、児童に「福富の魅力を、福富を知らない人たちに伝えてほしい。」という依頼をしていただいた。児童が普段利用するほど身近な道の駅の駅長さんからの依頼に、「やってやるぞ！」と高い意欲をもつ様子が見られた。



地域の方のおすそめを聞こう！

福富に住んでいる方に福富の魅力を教えてもらうことで、観光マップに載っていない、住んでいるからこそ知っている場所や情報を聞き出すことができた。それらは、児童にとっても新たな発見がほとんどで、活動に対する意欲が高まったり、福富に対する愛着が深まったりする様子が見られた。



<主体性を育む取組> 児童が興味を持った場所に行く。

児童が「行ってみたい。」「調べてみたい。」と思ったところに町探検に行くので、自然と児童が主体的に活動するようになる。また、探検先での新たな発見をすることで、「もっと知りたい。」という思いが強くなった。加えて、地域の方のおすすめの場所や物を聞くことで、次に調べるものが明確になり、活動全体を通して主体的な姿が多く見られた。

<協働性を育む取組> グループで話し合う場を設定する。

最初は個人で聞きたいことを考えるが、その後は探検のグループに分かれて質問内容の整理や役割分担を行った。町探検を終え、振り返りを行う際には、どんなことが分かったか、その場所の魅力は何かなどを話し合わせた。これらを通して、自分と違う意見を受け入れようとしたり、よりよい質問を協力して考えようとする児童が増えてきた。